

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0771000197	
法人名	株式会社マインド	
事業所名	グループホームまいんど福の里	
所在地	福島県二本松市向原265-5	
自己評価作成日		評価結果市町村受理日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成24年2月17日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

気持ちに余裕を持ち、地域の方との交流を大切にしながら利用者のペースで楽しく過ごせるように支援しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1、防災訓練やお祭りなどで行われている地域との交流や施設整備での市町村と密接な連携など、事業所は地域と良好な関係を築き、交流の維持、発展を図っている。  
2、徘徊する利用者がいても施設などはせず、見守りを徹底することで身体拘束をしないケアなどに対応している。  
3、事業所は「元社員寮」という制約された建物の「生活歴」を所持しているが、共用空間や居室はその「生活歴」の持つ雰囲気を最大限に活かし、利用者にとって生活感があり、落ち着いた、居心地よいものに作り上げている。

## . サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業所の理念は、職員一同毎朝唱和している。</p>	<p>夜勤から日勤への申し送り終了後に職員一同で唱和して共有を図っている。また、理念には3つの目標があるが、その1つをその日の課題としてサービスに努め、理念の実践を図っている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>防災訓練は、地域の方の参加を積極的に募り、参加して頂いている。また、子供110番を申請中です。お祭りでは、神輿を門前にて見られ大変喜ばれています。また、近隣の床屋さんに散髪して頂いています。</p>	<p>事業所は町内会に加入している。住宅地にあるため防災訓練は地域住民参加で実施し、救出誘導などの協力を得ている。また、職員が働きかけて提灯祭りでは神輿が事業所前を運行したり、近所の理容室からは格安料金での散髪協力を得ている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進委員の方々や、地域の方々を対象にサポーター養成講座を開催、参加して頂いて少しずつ理解して頂くことに努めている。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、利用者様の状況を報告、防災訓練への参加・委員からの要望により、合同運営推進会議で支援向上に努めている。</p>	<p>運営推進会議では委員から積極的に意見が出され、事業所の運営に活かされている。特に地域代表の委員は防災問題に熱心に取り組み、事業所に意見具申を行い、事業所も安全安心な施設にと、積極的に対応している。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>利用者の担当の方に、本人の生活状況・サービスケアの報告。要支援になった利用者様の状況により生活状況の報告や食事の提供を行っている。</p>	<p>市の担当者と密接に連携を取り、スプリンクラーの設置や暖房装置の修復を行った。また、要介護から要支援に改善した利用者が社会復帰した後も包括支援センターと協議して「昼食」を提供するなど良好な連携を行っている。</p>	
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束委員会が中心となり、拘束行為を正しく理解し、利用者の安心した生活支援に努めている。</p>	<p>夜の戸締まり以外に玄関の施錠はなく、毎月1回の職員の委員会やスタッフ会議で身体拘束をしないケアの研修を行い、正しく理解している。実践においても、徘徊する利用者には見守りで対応するなど身体拘束をしないケアを行っている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>常日頃の支援では、精神面も含めて虐待的行為が内容に指導を受けており、身体拘束等も含めた社内研修会を行っている。ミーティング時にも話し合いを行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、制度の利用が必要ない状況であるが、権利擁護・成年後見制度時、支援出来るようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用者の家族の方と一緒に書類を読み上げ説明し、分からない点等を伺いながら了解を得て、特に利用料・同意書・施設での生活内容を十分に説明し納得を頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や行事に参加していただいて、意見等を伺っている。 防災訓練・放射能・利用者の生活状態の感想等の話が多く聞かれる。	家族からは運営推進会議の席や来所した際に要望を聞いている。また、遠くにいる家族には電話などで利用者の近況報告した際に要望を聞いている。放射線量や防災上の関心が高いので、事業所の近況も含めて月に一度、写真入りの便りを各家族に送っている。	家族との連絡では職員を利用者ごとに担当させるなど家族との連絡はきちんと行われている。その一方で、家族の一部には利用者の希望や状態について事業所に正確な情報が伝わっていないのではと感じているところもある。利用者と家族の正確な希望や意見の把握と反映を期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員と常に話し合いを実施、会社への要望・意見等を年2回運営者と管理者・職員とで話し、運営等の反映に努めている。	管理者と職員は日常的に活発な意見交換を行っている。意見は管理日誌に書き込まれ、運営に反映している。また、法人では人事考課制度を導入しており、代表者は年2回管理者を外した職員との話し合いを行っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を活用し、職員個々の目標への取り組みや勤務状況を把握できるようにしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は定期的実施し、多くのスタッフが参加できるようにしている。 また、社外研修では、スタッフの経験年数や力量に合わせた参加の機会を作っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会での管理者会議や、複数事業所連携事業による研修会や社外研修会での意見交換・交流会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の身体・生活状況の把握をし、本人・家族と良く話し合い、家族的な雰囲気の中で自由に生活できる。外出・外泊自由で、他出来ない部分のお手伝いをさせていただいたので、安心して暮らせる等の説明をしている。声かけを多くし、不安解消に努めている。			
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の身体・今までの生活状況を把握しながら、本人・家族と良く話し合い、家族的な雰囲気の中で外出・外泊自由・出来ない部分の支援で安心かつ安全な生活を送れるように努めることの説明をしている。			
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と良く話し合い、状態を把握することにより、本人・家族が他のサービスの利用が必要と思われる場合には、適切な対応に努めている。			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることの手伝い等で、一緒に食事作り、食器の後かたづけ、洗濯たたみ他、歌や踊りや食事を一緒にする等、楽しい雰囲気の中で共に生活しているとの気持ちで接している。			
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年間行事(花見・芋煮会・クリスマス会)の参加の案内で本人・家族と一緒に楽しんで頂くこと、受信時の電話連絡時や面会に来られた時に本人の生活状況を伝え希望を伺ったりしながら、本人・家族がゆっくり話し合える配慮に努めている。			
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの市内・お祭り・商店街・近くの温泉場の風景・各所等を車輛より眺めたり、お茶を持ち遊びに出掛けている。また、馴染みの面会者も自由に来所していただき、交流されることを大事にしている。	馴染みの市内各地へのドライブのほかに週2回のスーパーへの買い出し同行や好天時には近所の公園にピクニックに出かけるなど、なじみの場所との関係を維持している。また、近所の施設に入所している友人が事業所に遊びに来るなど馴染みの人との交流も図っている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全体の良好な雰囲気に配慮している他、食事・行事等、職員が良きコミュニケーションをとりながら、孤立をしない様に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>要支援1になり、社会復帰された方がいるので、昼食を来所し食べて頂いている。</p> <p>今後も、本人・家族と連絡を取りながら必要な対応に努めていきたい。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>さりげない日常会話を通してご本人の意向や、要望の把握が出来るように努めている。</p> <p>意思表示が困難な場合であっても、ご家族に相談したりしながら、出来るだけご利用者本位になるようなケアを行っている。</p>	<p>利用者と昔話をする事で生活歴などを聞き出し、本人の思いや意向をの把握に努めている。縫い物や料理の好きな利用者には介護度の重い人にも手伝ってもらっている。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>事前調査時や、入所時に生活歴や最近の状態等、本人が望んでいる事等を家族に記入して頂き、穏やかに生活出来るように努めている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>1日の過ごし方は、それぞれ違っており、テレビ・居室・リビングで過ごされ、職員との話、塗り絵・昼寝するなどの把握・身体状態の低下等現状の把握に努めている。</p>		
26	(10)	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>居室担当者との話し合いやスタッフ会議でのカンファレンスで他スタッフとも話し合い、その結果で計画作成し、来所時に家族の意見も聞いている。</p>	<p>利用者が通院するためには歩行ができなければならない。そのために担当職員はじめスタッフと利用者や家族と話し合っ介護計画を作成し歩行訓練を行っている。また、利用者の介護度状態に沿ってベッドの高さを調整するにも相談しながら行っている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケアプランを中心とした個別記録となっているが、ケアプランの内容以外にも新たな気づきがあれば、その都度記入し、申し送りやスタッフ会議で情報が共有できるようにしている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>家族の状況に応じ、代理受診・同行介助・本人の緊急時対応等、柔軟な支援に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近隣の理髪店に出掛けたり、職員と近所のスーパーに出掛け、買い物の手伝いや、近隣宅の庭への散歩で花を觀賞、敬老会参加等で、地域との関わりを持ちながら生活を楽しめる支援に努めている。</p>		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>定期受診は、家族の協力をいただく様になっているが、本人の状態等で家族・主治医の理解を受けられた方に関しては、認知症専門医も受診出来るように支援している。</p>	<p>かかりつけ医への受診は家族の協力で行われている。事業所としては利用者が通院時に歩けるように支援している。また、症状が進んだ利用者には専門医を紹介して穏やかさを取り戻すなど、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日頃の変化をホーム看護師・訪問看護師・医師・家族に連絡、適切な受診対応等に努めている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>職員が出来る限り面会へ行き、コミュニケーションを取り、病院の相談員・看護師・家族と連携をとり、状態把握に努めながら早期退院出来るように支援している。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所契約時、ターミナルケアのあり方を事業者としての方針・内容を家族に説明している。必要時には、家族・主治医等と良く話し合いをし、支援することで理解を受けている。</p>	<p>重度化した場合、事業所は出来る介護支援を行い、最終的に家族や主治医と話し合いを行なって対応を決めていく方針である。それを家族は理解している。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員全員が普通救急救命の研修を受けている。社内研修にて応急手当や、初期対応等を受けている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災訓練は、半年に1度地域の方の参加協力で消防署の指導を受けて、初期消火・ダミー人形を使用した階段からの救助方法・夜間火災の想定避難訓練を実施している。3月の震災時には、職員の協力と行政の指導により、無事避難出来ました。</p>	<p>事業所は住宅地にあるため火災対策が最大の課題。しかし、消防本部が近接しているため「避難の手伝いも可能」といわれている。そのため、通報訓練に力を入れると共に、地域からは積極的な協力関係を得て、良好な体制を築いている。また、事業所の廊下や居室の分かりやすいところに防災頭巾やヘルメットを用意して、いざ、に備えている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に声かけの工夫で、排泄・入浴等に対応し、行動・発言を受け入れ、人生の先輩であることを忘れずに対応することに努めている。	利用者に対しては「さん」付けを基本に、トイレや入浴時には利用者1人ひとりにあわせて話しかけたり、和ませながら支援するなど利用者の人格を尊重した対応に努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が出来ることの手伝いや、入浴・散歩等、本人の意思決定をして頂いている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状態に合わせて、入浴・散歩・昼寝・リハビリ体操等、希望を聞きながらペースに合わせて自由に生活して頂く事に努めている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔保持に配慮し、男性のひげそり・女性のブラッシング等、好きな洋服選びとその方らしさに努めている。			
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下準備や味付けを一緒に行ったり、台拭き・下膳・食器洗い・食器拭き等、手伝って頂いている。一緒にテーブルにて話をしながら食事をし、全介助の方とは、良きコミュニケーションでの食事に努めている。	食事を楽しむためにメニューづくりは利用者の希望を参考にしている。料理が分かりやすくするためチラシの写真を見せながら希望を探るなど工夫を凝らしている。また、誕生日のお祝いにも利用者の好みに沿っておはぎや寿司をあしらったケーキを出したり、散歩がてら回転寿司で外食するなど楽しい食事になる努力を行っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材の利用とメニューの考慮にて、栄養バランスの保持に努め、状態に合わせて調理(お粥・きざみ・ミキサー)している。 水分量は、チェック表にて記入し、水分の確保に努めている。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけの方、誘導一部介助・全介助の方等、力量に合わせて、ケアに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状態に合わせての介助により、トイレで排泄されている。 1日の排泄時間を設定し、声かけトイレ誘導(立位困難の方は、2人介助)にて、排泄していただいている。	排泄で自立をしている利用者は2人と少ない。利用者の動作を見守りながら声をかけて排泄誘導するなど、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事は、野菜中心で消化の良い調理方法と水分摂取・乳製品(牛乳・ヨーグルト等)の摂取、身体を動かす(リハビリ体操・散歩)様にさせていただいて、予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や希望を聞きながら、押しつけにならないように歌・会話等で楽しく入っていただく事に努めている。	利用者1人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、入浴は曜日を決めず、早朝と就寝時間帯を除いて毎日可能となっている。入浴嫌いの利用者には工夫を凝らした声かけ誘導などで入浴支援を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合った照明調整・居室の温度調整・季節に合わせてぬれタオルによる保湿等で、極力安眠支援に努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に日付記入で整理してあり、服薬時、一人ひとりの名前・日付・朝・昼・夕を職員が声に出し確認し、臨時薬時には、カードをつけ確認後服薬の支援に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的にボランティアの方(アコーディオン・オーケストラ・そば打ち会・昔話)の支援で楽しんでもらっている。 家事仕事・懐メロ・ドライブ・外食等の支援に努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力で外出される方(自宅・墓参り・受診・食事等)また、職員支援での車にて市内見学・花見・足湯・効用・地域の名所等への外出支援に努めている。	日常的な外出はスーパーへの買い物同行が週2回行われているのははじめ、職員運転の車で岳温泉への足湯ドライブなど市内各地への外出支援が季節ごと、イベントごとに行われている。また、好天日を選んで近接の公園にピクニックに出かけ、お茶会を楽しむ支援を行っている。	利用者によっては短時間ながら日常的に散歩したい人がいる。家族も望んでいる散歩支援を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人と家族の意向で一部の方が所持されている。施設管理で預かっている方は、家族・本人の希望で状況に応じて使用支援に努めている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話は、本人の希望・要望等で、自由に何度でも会話していただいている。(家族・親戚等)</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>整理整頓・保清・明るく安全・落ち着ける空間(季節感を取り入れた飾り付け・写真等)の配慮で穏やかに過ごしていただける様に努めている。</p>	<p>事業所は元社員寮を改造して作られている。台所や食堂、浴室などは従前の施設を活かして利用しているがテーブルや椅子、ソファなど調度品も雰囲気にあわせて備えてある。利用者にとって生活感のある、落ち着いた居心地のよい空間づくりを行っている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>自由に移動出来るように、座席は決めない配慮をしている。全体の状態に配慮し、良き雰囲気でも過ごせる様に目配り等の支援に努めている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の協力を受けながら、自宅での生活の雰囲気(家具・仏壇・寝具等)空間造りに努めている。難しい方の居室も工夫(写真・折り紙等)して、その方らしい居室空間になるよう努めている。</p>	<p>居室には利用者が自宅で使っていた家具や仏壇が置いてあり、「自宅の延長」の雰囲気づくりを行っている。また、写真や折り紙などを使って居心地のよい空間づくりを工夫している。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室表札・手すりの設置・目印(トイレ・エレベーター等の表示)で自力行動で生活出来るように努めている。</p>		